

## 高齢者がん診療指針策定に必要な基盤整備に関する研究

研究分担者 海堀昌樹 関西医科大学外科学講座 肝臓外科 診療教授

### 研究要旨:

「高齢者がん患者の Q&A」における外科手術療法に関わる記載項目と内容を検討し、日本消化器外科学会の会員に呼びかけて分担執筆した。高齢者がん医療の研修会に参加し議論を深めた。

### A. 研究目的

外科手術療法は一般的に侵襲性が高く、各臓器手術において年齢上限は決められておらず、各施設での判断に委ねられている。今回、高齢者がん医療における外科手術療法療法の有用性を関係者との議論や文献的考察から明らかにし、「高齢者がん患者のQ&A」の執筆を通して、その年齢に特化した外科手術の有用性や限界を周知させ、診療指針策定に必要な基盤整備を行う。

### B. 研究方法

研究分担者の海堀より、日本消化器外科学会の学会員である者を中心として「高齢者がん患者のQ&A」の執筆者を依頼し、外科手術療法の総論および肝胆膵外科領域の各論の記載項目と内容を検討、執筆を通して議論を行った。高齢者がん医療の研修会では、情報交換、討論を行ったが個人情報については配慮を行った。

### C. 研究結果

高齢者がん医療の教科書では手術での年齢制限などはなく、75歳や80歳以上での単独施設や

数施設での生存率などのデータ解析しか存在していなかった。これらの文献検索を十分に行い、「高齢者がん患者のQ&A」の外科手術療法の総論執筆と校正、また肝胆膵外科領域の各論執筆と校正を終了した。

### D. 考察

各臓器での外科手術療法における、年齢別文献的考察において、全身状態の極めて良好な高齢がん患者に対して手術療法が選択されていた。

術後再発率や累積生存においては非高齢者と差は認められないとする報告がほとんどであったが、一部高齢癌患者の術後生存が不良であるとする状況が推察された。

### E. 結論

高齢者がん医療における外科手術療法の役割がQ&Aの作成と議論を通して明確になりつつある。高齢化が進行するわが国において外科手術療法のますますの適応拡大が推測される一方、重篤な併存疾患を有する高齢癌患者に対す

る手術は控えるべきである。本研究を通して高齢者に対する外科手術療法の有用性が周知されることを期待し、次年度以降さらに研究を推進する。

#### G. 研究発表

Treatment Optimization for Hepato-cellular Carcinoma in Elderly Patients in a Japanese Nationwide Cohort./Kaibori M, Hasegawa K, Ogawa A, Kubo S, Tateishi R, Izumi N, Kadoya M, Kudo M, Kumada T, Sakamoto M, Nakashima O, Matsuyama Y, Takayama T, Kokudo N; Liver Cancer Study Group of Japan. Ann Surg. 2018 Mar 30

#### 学会発表

肝癌研究会追跡調査よりみた高齢肝細胞癌に対する外科的切除の意義/海堀昌樹、吉井健悟、横井勲、長谷川潔、高山忠利、久保正二、泉並木、角谷眞澄、工藤正俊、熊田卓、坂本亨宇、權雅憲、中島収、松山裕、國土典宏 ー第118回日本外科学会定期学術集会 アンコール発表 (2018年4月5日、東京)

#### H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得:なし
2. 実用新案登録:なし
- 3.その他:なし